

大自然的
精神漫游……



「冯祥云」水墨畅想

冯祥云画集

陈大中题

上海社会科学院出版社

【冯祥云】

冯祥云画集

陈大中题



水
墨
畅
想

大自然的精神漫游……

上海社会科学院出版社

作者简介



冯祥云 1960年7月生于上海。先后就读于上海市工艺美术学校绘画专业，日本东京艺术专门学校研究科。在日本多次举办个人画展及参加各类联展。1989年作品《硕果累累》入编日本奈良《天理美术展》作品集。2002年《祥云画集》出版。2003年《21世纪优秀艺术家画集——冯祥云》由江苏美术出版社出版。自由职业。

ひょうしょうらん

冯祥雲の略歴

馮祥雲 1960年7月、上海生まれ。上海市工芸美術学校 絵画科、日本東京芸術専門学校研究科を卒業。日本で何回も個展や共同展を開いた。1989年、その絵《碩果累累》が奈良の《天理美術展》作品集に編入。2003年に「21世紀優秀芸術家画集——馮祥雲」が江蘇美術出版社より出版。自由業。

作者个人主页 ホームページ

www.xiangyunge.com

序一

走近冯祥云……

自四年前偶识画家冯祥云，便一直在关注着他的绘画，随着时间的推移，觉得渐渐地在走近他的精神世界。

祥云的世界应该是自由的、浪漫的、真实的。

说他自由，是因为他的画是个人情感与美感的自由流露，他的画，就是一张纯粹的画，不炫耀绘画源流、不依傍金科玉律，他只画他自己。

说他浪漫，是因为他的画中充满了想象与创造，平凡无奇的原野、司空见惯的花草，在他的笔下都被赋予了新的涵义。

说他真实，是因为在他的画中看到了画家的真心，而真心正是一个艺术家所必须具备的要素。

祥云从事绘画已有二十多年，在向社会展示绘画的同时，也在向社会展示自己。而人们在走近他绘画的同时，也在走近他本人。

陈大中

2005年8月于西泠

ひょうしょううん

馮祥雲さんに近づく

四年前、偶然に画家馮祥雲さんに出会った。その後、ずっと彼の絵に関心を寄せ、時間の経つにつれて、彼の精神世界に近づいているような気がした。

祥雲の世界は自由的であり、浪漫的であり、真実的なものである。

自由的というのは彼の絵は個人情感や美意識の現れであり、一枚の純粹の絵であり、絵の源流を鼻にかけず、金科玉条によらず、彼自身が描こうとするものを描くだけであるから。

浪漫的というのは彼の絵の中に想像力と創造力が溢れていて、平凡な野原、ありふれた草花などにも彼の筆によって新しい意味が与えられたからである。

真実というのは彼の絵の中から画家の真心を見つけるからである。真心は芸術家が持つべき要素である。

絵を描く歴史が二十数年もある祥雲さんは社会に絵を展示すると同時に、自分をも展示している。人々は彼の絵に近づくと同時に彼自身にも近づいている。

陳大中

2005年8月 西冷にて

序二

中国和日本的结合、抽象和具象融合的世界

冯祥云的绘画理念——描绘独特的自然观

对艺术家来说，技术是一个不可缺少的重要要素。但是，其作品能感动人，让人产生共鸣就并非完全依赖技术。融入作品中的气息就是存在于作者心中的一种理念。那是艺术家这一“个体”所放出的一束强光。人们是感受到了这道光，并接受了艺术家的理念才步入作品的世界里的。

年轻时，冯祥云在中国国内学习绘画。当他考虑放弃已有的工作而希望展现自己的世界时，出现了一个重大转机。

一九八八年，二十八岁的冯祥云只身赴日留学，就读于日本美术学校。一位日本老师曾对他说：“你可别模仿我，要寻找自己的世界。”老师的这句话使他茅塞顿开。“追求自己的个性”是冯祥云跨入画坛的第一步，也是他永恒的主题。

他的画风源于他在中国和日本两个国家生活所得到的体验，这种画风创造了他的独特世界，那就是既继承了中国水墨画的文人画风的传统，又融入了日本对西洋画的理念的一个崭新空间。而且，作品中描绘的对象多为“自然”。特别喜爱大自然的冯祥云，每当他接触到大自然，就会高兴得像又回到了少年时代。他所见到的各种风景，都会通过他独特的过滤而变成作品。冯祥云的画，有时候看上去是抽象画，有时候看上去是具象画。他的画是一个光辉照人的世界，这个世界没有停留在抽象或具象的框架内。

各种要素的重叠、融合，孕育着产生新事物的可能性。站在冯祥云所描绘的世界的入口处，一种想不断深入其境的欲望，与来到异国街头时的期待十分相象。

日本映像作家

宫城谷好是 みやぎたによしゆき

ホームページ www.miya-studio.co.jp



冯祥云

独特の自然観を描く馮祥雲のメッセージ

中国と日本、抽象と具象が融合する世界

技術はアーティストにとって欠かすことが出来ない大事な要素である。しかし、その作品が人に感動を与え、共鳴を生み出すのは、もちろんその技術のみによるものではない。作品に息を吹き込むのは作者の心の中にあるメッセージである。それはアーティストという「個」が放つ強烈な光でもある。人はその光を感じ、そしてそのメッセージ受けとめて作品の持つ世界を旅する。

若い頃、中国での修行の中で技法を学んできた馮祥雲にも、与えられた仕事ではなく自分の世界を表現したいと考えた時に、大きな転機が訪れた。

一九八八年、二八歳の馮祥雲は、単身日本へ留学し美術学校に入学。その日本での先生から言われた、「私を真似するな。自分の世界見つけなさい。」という言葉で目から鱗がおちた。「自分の個性を追求する」。それは馮祥雲の画家としての確立の始まりであり、彼の永遠のテーマとなったのだ。

中国と日本という二つの国で得た体験から生まれた彼の作風は、独特な世界を創りだす。それは墨を使った中国古来の手法と、日本の油絵が混ざり合った斬新な空間だ。そして、その作品に描かれる対象の多くは「自然」である。自然をこよなく愛する馮祥雲。自然と接する時の彼は少年に戻ったかのように楽しそうだ。そして彼が見た様々な光景は、彼独自のフィルターを通して作品となる。時には抽象画にも見え、具象画にも見える馮祥雲の画。そこには抽象具象という枠に留まることのない、彼の放つ光に照らし出された世界がある。

様々な要素が重なり合い、融合する。そこには新しいものが生まれる、未知なる可能性が秘められている。馮祥雲の描く世界の入り口に立つ時の、その奥へ奥へと誘われる期待感は、異国の街に降り立った時のそれと似ている。

日本映像作家

宮城谷好是 みやぎたによしゆき

ホームページ www.miya-studio.co.jp

01	序一 走进冯祥云	陈大中	
03	序二 中国和日本的结合、抽象和具象融合的世界		
	冯祥云的绘画理念——描绘独特的自然观		
01	风吟花唱 80×80		
02	金波浩淼 68×140		
05	纯色诱惑 68×68	28	河塘晚秋 128×31×4幅
07	樱花前线 97×180	31	黑白之间 80×80
09	白壁无瑕 68×68	33	蓝调 97×180
10	彩池 68×140	34	花容月貌 68×140
13	风·影 80×80	37	祥云追日 97×180
15	百年石榴（海上名园—豫园） 140×68	39	莲香曦郁 97×180
17	秋风 68×68	41	迷醉 68×68
19	海上三月时 62×62	43	早春 80×80
21	故乡行 97×180	45	牡丹 68×68
22	初日 68×140（日本株式会社 ASTEC 藏）	46	日出 68×140
25	风骨神遇 80×150	49	玉洁冰清 68×68
27	莲藕争风 68×68	51	坠粉飘红 80×80
		53	绮莲幽梦 68×68
		54	百年好合 68×140
		57	又见窗外笔桃红 97×180
		59	娇柔 68×68
		61	与风共舞 80×80

目次

01	序一 馮祥雲さんに近づく (陳大中)		
03	序二 独特の自然観を描く馮祥雲のメッセージ 中国と日本、抽象と具象が融合する世界 (宮城谷好是)		
01	藤の花 80×80		
02	波瀾になっている菜の花 68×140	25	石榴 80×150
05	白い牡丹 68×68	27	真夏の蓮の花 68×68
07	桜前線 97×180	28	晩秋の蓮 128×31×4
09	白いつばき 68×68	31	白木蓮 80×80
10	蓮の花 68×140	33	サンマ 97×180
13	葦原 80×80	34	月の下の白木蓮 68×140
15	百年石榴 (海上名画——豫画) 140×68	37	朝の白木蓮 97×180
17	秋風 68×68	39	白い蓮の花 97×180
19	海上三月の時 62×62	41	赤い牡丹 68×68
21	菜の花が咲いているころ 97×180	43	早春 80×80
22	初日 68×140 (株式会社アステック蔵)	45	ぼたん 68×68
		46	日の出 68×140
		49	百合の花 68×68
		51	さくらの満開する時 80×80
		53	蓮の実 68×68
		54	百合の花 68×140
		57	赤い夾竹桃 97×180
		59	百合の花 68×68
		61	白い夾竹桃 80×80



风吟花唱

藤の花 80×80



金波浩森

波瀾になっている菜の花 68×140







纯色诱惑

白牡丹 68×68





樱花前线

桜前線 97×180

